

令和 7 年度

教育行政執行方針

幕別町教育委員会

教育長 笹原 敏文

【はじめに】

令和7年第1回町議会定例会の開会に当たり、本年度の教育行政執行方針について申し上げます。

地球温暖化による気候変動や国際情勢の不安定化など、世界が直面する課題の多様化に加え、技術革新等による国際化や情報化の急速な進展等により将来の予測が困難な時代にあつては、子ども達一人ひとりが自分のよさや可能性を認識し、様々な体験を通して社会的変化を乗り越えることができる資質や能力を育成することが重要となっております。

このことから、教育委員会といたしましては、子ども達が学びの楽しさを実感し、自分自身の可能性を最大限に引き出すことで、自信を持って成長することができるよう、学校、家庭、地域が相互に連携・協働し、一体となって教育行政を推進するとともに、町民の皆さんが生涯にわたって心豊かに、健康に暮らすことができるよう、芸術・文化・スポーツの活動を通して、様々な学習機会の提供と学習活動を支援してまいります。

以下、「第6期幕別町総合計画」基本計画第4章「豊かな学びと文化、スポーツで住まいる」の各節と第1章「協働と交流で住まいる」第3節について、本年度の主な施策について申し上げます。

1 豊かな人生を育む生涯学習の推進

はじめに、「豊かな人生を育む生涯学習の推進」についてであります。

社会を取り巻く環境が大きく変化する中、個人が生涯にわたって学び続ける必要性がますます高まっていることから、生涯学習の一層の充実が求められています。

このため、「第7次幕別町生涯学習中期計画」に基づき、生涯学習の拠点となる施設において、町民の興味や関心に応じて、「いつでも、どこでも、だれでも」学ぶことができる施策を展開してまいります。

また、図書館では、「第4期幕別町子どもの読書活動推進計画」に基づき、すべての子どもが様々な機会や場所で読書活動を行うことができるよう、地域全体で連携し、子どもの読書環境の整備を図るとともに、本年度は民間企業の寄附事業を活用し、町部局を含む関係機関との連携による子育て家庭への読書推進事業を実施するなど、引き続き「図書館を核とした地域づくり」に取り組んでまいります。

2 「生きる力」を育む学校教育の推進

二つ目は、「「生きる力」を育む学校教育の推進」についてであります。

はじめに、「学校教育の充実」について申し上げます。

本町の学校教育の中核となっている小中一貫教育の推進については、教育課程の充実として小中合同の学力分析から学園の課題を明確化するとともに、系統性を重視した小中一貫カリキュラムの充実を図り、有効性のある乗入授業などを推進してまいります。

また、各学園内で取り組む小中合同の児童・生徒指導交流会と特別支援教育交流会を定期的に行い、情報共有と小中の連携を一層進め、義務教育9年間を見通した計画的・系統的な生徒指導・特別支援教育の充実に努めてまいります。

加えて、通常学級に在籍する特別な配慮を必要とする児童生徒を支援するため特別支援教育支援員を小学校5校に36名、中学校3校に7名配置し、医療的ケア児を支援するため看護師を小学校1校に1名派遣してまいります。

コミュニティ・スクールと地域学校協働活動については、学校運営協議会の熟議が充実し、学園の実情に応じた活動が具体化してきていることから、現在行われている地域力を活用した教育活動をさらに広く周知することで、新たなアイデアを掘り起こし、一体的に推進してまいります。

学校ICTの活用については、学習用端末の計画的な更新と効果的な活用を進め、本年度本格導入する授業支援ソフトにより協働的な学びを充実させるほか、学習用端末を活用した不登校児童生徒の家庭学習支援を行ってまいります。

学校における働き方改革については、「幕別町アクション・プラン（第3期）」に基づき、より実効性の高い働き方改革を推進してまいります。

また、本町の生徒にとって望ましい部活動の在り方や地域移行等について、引き続き「幕別町部活動地域移行検討委員会」で検討を進めてまいります。

次に、「学校給食」についてであります。

学校給食は、児童生徒の心身の健全な発達に資するとともに、食に関する正しい理解と健全な食生活を営むことができる判断力を養う上で重要な役割を果たしています。

このことから、栄養教諭の専門性を活かした指導や地場産食材を活用した「まくべつの恵み給食」の提供を行うほか、衛生管理の徹底や計画的な設備更新を進め、学校給食を継続して安定的に提供していくための運営体制の維持に努めてまいります。

また、物価高騰が収まらない状況の中、成長期にある児童生徒の健康増進と体位の向上を図りながら、創意工夫を凝らした献立の作成に努めるとともに、給食材料費の確保のため学校給食費の単価改定についても引き続き検討を行い、安全・安心で栄養バランスのとれたおいしい給食を提供してまいります。

次に、「教育施設の整備」についてであります。

本年度は、令和5年11月に策定した「幕別中学校を活用した義務教育学校の設置に係る方針」に基づき、義務教育学校「まくべつ学園」の8年度開校に向け、現幕別中学校校舎の増改修に着手してまいります。

次に、「高等学校への支援」についてであります。

幕別清陵高等学校については、引き続き各種学校教育活動に対する支援に努めるとともに、昨年12月に町内の中学校との連携強化を目的に設置した「幕別町中高連携協議会」を通じて、情報共有による相互理解や生徒及び教職員の交流等を図ることにより、進学先としての円滑な接続と安定的かつ持続可能な学校運営の確保に

繋げてまいります。

また、中札内高等養護学校幕別分校については、町内の福祉関係団体や経済団体等で組織する「地域協力会」と連携しながら、引き続き就労促進につながるよう支援してまいります。

3 青少年の健全育成の推進

三つめは「青少年の健全育成の推進」についてであります。

次代を担う青少年が豊かな人間性を育み、自ら進んで社会参加ができる健全な社会人として成長するよう、学校・家庭・地域などが連携して青少年の健全育成を推進することが必要であります。

このことから、自然体験や郷土の歴史、文化・スポーツなど幅広い学習機会の提供をはじめ、青少年の健全な育成を図るため「ふるさと館ジュニアスクール」や「学び隊」などの事業を継続してまいります。

また、幕別町PTA連合会や幕別町児童生徒健全育成推進委員会のほか、子ども会などの活動について支援することで、未来にはばたく青少年が健やかに育つ環境づくりを推進してまいります。

4 芸術・文化活動の振興

四つ目は、「芸術・文化活動の振興」についてであります。

音楽や美術、演劇などの芸術文化は、人々に感動や生きる喜びをもたらし、人生を豊かにすると同時に、社会全体に彩を添える上で欠かすことのできないものであります。

このため、百年記念ホールの指定管理者であります「特定非営利活動法人まくべつ町民芸術劇場」と協働・連携を図りながら、優れた芸術文化に接し、体感することができる鑑賞機会を提供してまいります。

5 歴史的文化の保存・伝承

五つ目は、「歴史的文化の保存・伝承」についてであります。

本町の歴史的・文化的資源である郷土文化資料とその情報を町民共有の財産として次世代に引き継ぐためには、町民の皆さんが郷土文化資料を通じ、身近に先人の苦労や豊かな知識に触れ、特に次代を担う子どもたちがふるさとへの新たな思いを養い、幕別町への愛着と誇りを育む事業の展開が重要であります。

このため、ふるさと館やナウマン象記念館のそれぞれの特長を生かし、郷土の歴史や文化等を学習する場として活用を図るとともに、本年度も百年記念ホールや図書館、札内コミュニティプラザにおいて、蝦夷文化考古館資料の移動展示を開催してまいります。

また、昨年10月には忠類地域で54年ぶりにナウマンゾウの化石が発掘されたことから、本年度は未発掘エリアを重点的に調査するとともに、ナウマン象記念館の来館者が多く見込まれることから、より快適に鑑賞できる空間を提供するため、展示室のエアコン設置工事を実施いたします。

さらに、「幕別町アイヌ施策推進地域計画」に基づき、本年度は、アイヌ文化拠点施設の生活館棟と展示館棟の建設工事や蝦夷文化考古館宝物堂の保存改修工事のほか、幕別アイヌ協会やマクンベツアイヌ文化伝承保存会など関係団体と連携した、アイヌ文化体験講座などを実施してまいります。

6 健康づくりとスポーツ活動の振興

六つ目は、「健康づくりとスポーツ活動の振興」についてであります。

本町には、町発祥のコミュニティスポーツであるパークゴルフ場など数多くのスポーツ施設を設置しておりますが、そうした場所を多くの町民が気軽に利用できるよう維持管理に努め、体力づくりや健康維持のため利用の促進を図るとともに、パ

ークゴルフ家族大会や町民親睦パークゴルフ大会のほか、リフレッシュ教室やパラ
スポーツ体験教室など各種イベントを開催してまいります。

さらに、「第2期幕別町スポーツ推進計画」に基づき、スポーツを見る・する・
楽しむ機会の創出やスポーツ交流人口の拡大に向け、関係機関等と協力・連携を図
り、オリンピックや応援大使による学校訪問やイベントの開催など、アスリートと
創るオリンピックの町創生事業を展開してまいります。

加えて、来年2月にはミラノ・コルティナ2026オリンピック・パラリンピッ
ク冬季競技大会がイタリアで開催されますことから、町のホームページやSNSを
活用し、本町出身者の動向や大会スケジュール等を広く発信するなど、多くの町民
の皆さんとともに応援する機運を醸成してまいります。

7 国内交流や国際交流の推進

最後に、「国内交流や国際交流の推進」についてであります。

国内交流については、次世代を担う人材を育成するため、埼玉県上尾市、神奈川
県開成町及び高知県中土佐町と小学生の派遣・受入れの相互交流を毎年実施してお
ります。

本年度は、開成町から20名、中土佐町から15名の受入と、上尾市へは本町の
小学校5・6年生合わせて10名を派遣し、ホームステイや体験学習などを通して
子どもたちの感性や視野を広げるとともに、相互交流がより一層深まるよう事業を
実施してまいります。

また、国際交流では、昨年度、オーストラリアキャンベラ市のメルローズハイス
クールとの相互交流による受け入れを5年ぶりに再開したところであり、本年度に
おいても海外のホームステイを体験し、外国の生活・文化・自然などに対する理解
を深め、将来国際社会に貢献できる人材を育てることを目的に、中学2年生15名、
幕別清陵高等学校1年生3名、合わせて18名の派遣を予定しております。

【むすびに】

以上、令和7年度教育行政執行に当たっての基本方針を述べさせていただきました。

人は豊かで充実した人生を送るために、生涯にわたり様々な学びを続けます。

生涯学習は、知識や技能を深めることで自己成長を実感することができるとともに、豊かな人間関係や健康、幸福感等を得ることが出来るほか、社会に積極的に参加し多様な学びの機会を享受することで、地域社会においてもコミュニティの活力が高まるなど、地域全体の発展にも寄与します。

このことから、教育委員会といたしましては、町民の皆さんがそれぞれのライフステージにおいて、学校教育、社会教育、文化・スポーツ活動などあらゆる機会を通じて生き生きと学びを続けることができるよう、引き続き生涯学習社会の実現に向け各種教育施策を推進してまいり所存であります。

議員の皆さん並びに町民の皆さんのご理解とご協力を心からお願い申し上げます。教育行政執行方針といたします。